



# 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

93.1.13 No. 3722

—JR貨物は「93・3ダイ改」の—

## 具体的労働条件を緊急に提案せよ

12/24「93・3ダイ改」に  
関し団体交渉開催

一月二四日、貨物本社において「九三・三ダイ改」に関する団体交渉が開催された。会社はいまだに、「九三・三ダイ改」の具体的労働条件を提案せず、「一月下旬になる」などと不当な引き延ばしを図っています。

これはJR総連・日貨労との談合を背景に、「提案即妥結」を狙った攻撃であることは明白です。

昨年六月の株主総会以降開始された「JR貨物八〇〇〇人体制」攻撃は、一九九二年度五〇〇人の要員合理化強行、年末手当格差の意図的拡大等、社員間に、ことさらに不安を拡大させることを通じて意識分断・団結破壊を図り、一挙に、「八〇〇〇人」への弾みをつけるものとして、貫徹されてきたと見なければなりません。

われわれは、この攻撃が、「九三・三ダイ改」を期して、「時短・動乗勤」等あらゆる「効率化」を強行することを通して、一挙に推進されようとしていることを見据え、取り組みを強化してきました。

「分割・民営化」の  
矛盾こそ根本的原因

一・二・三四団交の要点は以下の通りです。  
(組合) 一月下旬に提案して三月中旬にダイ改実施などということは問題である。

現時点で、今年度の要員合理化が五〇〇人という実績が出ている。貨物会社は、九二年末手当で旅客会社との格差を、極めて顕著的に、大幅に拡大した。職場では、出向と賃金格差拡大で社内経営不安をあり、一挙に合理

化・出向を強行しようとしているのではないかと不安が広がっている。会社としてどう考えているのか。

(会社) 第一にJRになって六年が経過して全社員的に、貨物会社としてどう生きていくのかということ、具体的にはつきりさせる時期がきているということとが基本的にある。その一つの結果として、「九〇〇〇人」の問題もある。

今年度、「五〇〇〇人」合理化ということも、結果的に言われた通りである。

第二には、バブルの崩壊という全体の景気動向の問題がある。九二夏以降、収入が思っていた以上に落ち込んだことに対して、具体的に対応すると年末手当のダウンもやらざるをえなかった。社員の不安をあり、やる気をなくすことが目的ではない。逆に、置かれた状況を正しく把握し、やる気を出してほしいというのが会社の本心であり他意はない。

(組合) 「結果的に五〇〇〇人」というのは違う。明確に「計画的」だったと言わざ

るをえない。レールを持たない鉄道会社という不自然なスタイルを解消しない限り、貨物会社の矛盾は根本的に解消されることはない。

「九三・三ダイ改」については、労働条件が出されていないなかで、これ以上の議論は無理だと判断する。早急に提案し、誠意ある団体交渉で労働条件を確保していくよう要求して、本日の団交を終わりたい。

(会社) できるだけ早く提案できるようにしたい。

貨物の斗いを強化し  
「JR体制」を打倒しよう

以上のようなやりとりで当日の団交は終了した。これからの攻撃に対して、職場討議を深め、闘いへの決意と団結を固めなければならぬ。貨物の闘いをより強化し、「JR体制」を打倒しよう！

昨年十月二六日、千葉県警による「二月十八日のゲリラ事件」を口実とした、動労千葉本部への違法・不当な家宅捜索に対し、動労千葉は不当な弾圧攻撃を弾劾する立場から、一月二二日、国・県・裁判所・千葉県警を相手どり提訴した。

# 1月12日

# 不当弾圧に 対し提訴！